

## 青森県内消費者団体等と東北農政局の食品安全にかかる意見交換会の開催概要

東北農政局 消費・安全部 消費生活課

- 1 日 時 平成30年6月5日（火）13:30～15:30
- 2 場 所 アピオあおもり 2階小研修室1（青森県青森市中央3-17-1）
- 3 参加者 青森県内の消費者団体 3団体9名  
説明者、事務局12名 計21名

### 4 概 要

#### （1）農林水産省からの情報提供

- ① 食品の安全性の向上に向けた農林水産省の取組等について  
東北農政局消費・安全部 川原消費生活課長より説明
- ② 遺伝子組換え技術等の先端技術の農業・食品への応用について  
農林水産技術会議事務局研究企画課 森明技術安全推進第1係長より説明

#### （2）意見交換・質疑応答

##### 【 消費者団体 A 】

青森は家族経営が多く農村の高齢化が進んでいる。毎年離農者も多く発生しており、このままでいくと農業県としての青森を維持できなくなると危惧している。

また、環境保全型農業など、環境にやさしい農業や安全なものを生産していくという取り組みも遅れていると感じている。

将来の農業のありように今対策を講じていかないと、今後、農産物の供給県である東北地域の農業を支えていくことができないのではないかと危惧している。

##### 【 農政局 】

家族経営でしっかりやれる方はそれで結構だと思うが、政府・農水省全体の政策として、事業の承継・後継者不足の問題解決という観点から、法人化を図っていただくよう推進している。まずは法人の従業員という形で農業に参入していただき、その中から経営を引き継いでいくという



東北農政局 國井次長

形が集落全体の取り組みとしても目指すべき方向と考えており、そのために必要な対策を打ち出している。

環境保全型農業の取り組みが進んでいない理由として、慣行栽培に比べて手間やコストがかかることや販売価格に反映されていないということを農業者からよく言われる。コスト面については交付金を措置しているが、販売価格については、消費者の方にも理解していただき、多少割高になっても買いたいという方が増えれば、農業者にも追い風になるのではないかと思う。

### 【 消費者団体 A 】

構造改革が進むと地方の農業が逆に疲弊していくのではないかと。農業に対するこれまでの支援が弱かったのではないかと総括すべきと考える。

流通は大手による広域化、巨大化している現状の中、農業政策では6次産業化を全国で進めてきているが、実際のところ（6次産業化の商品は）その大手の全国流通に乗っていない中で、6次産業が政策の柱の一つとして



会場の様子 1

て育てていくのか疑問を感じる。

遺伝子組換えやゲノム編集技術についてお話をいただいたが、現在食品の遺伝子組換え表示については、どこまで表示するのかという議論で行き詰っていると認識している。新たにゲノム編集技術が出されているが、これを消費者に対しどのようにして理解してもらうのか、表示上の理解はどうするのか検討されていることがあれば聞きたい。消費者は安全

宣言されたものでないと受入れないと思うが、どのように安全宣言するのか検討が必要だと思う。

### 【 農政局 】

従来から、農水省は産業政策と地域政策を車の両輪と考えて行ってきた。

産業政策の柱としては、農地の集積や担い手の確保などがあり、地域政策的な柱は、多面的機能支払、中山間地域支払、環境保全型支払といった日本型直接支払を行っている。今後とも産業政策に加え、地域政策もしっかりやって集落の維持にも力を入れていく必要があると考えている。

6次産業化については、いかに農業地域にお金を落とすとしていってもら

かに主眼をおいたもの。付加価値を付けて自らつけた値段で売ることができれば、農業地域にお金が落ちるのではないかという観点から、重要な柱の一つであると考えている。

遺伝子組換え食品の表示の関係は消費者庁が所管していることから当方で回答できる立場ではないが、一般論としてどこまで表示ができるのか、技術的にできるかという話と、表示をする食品事業者がどこまでできるのかということがある。すべての人が納得するということはないので、最終的には最大公約数的なところで判断されるのではないかと思う。

#### 【 技術会議事務局 】



森明技術安全推進第1係長

ゲノム編集をどう理解していただくか重要な課題である。

日本に最初に遺伝子組換え食品が入ってきたときは、国民的な議論や法制度ができておらず、不安を煽る報道とも相まって、大きな反対運動があった。ゲノム編集技術は今の研究段階から、メリットやリスク等について研究者自ら出向いてお伝えするサイエンスコミュニケーション活動を行っているところである。そのような活動を積み重ねて皆さんに理解いただけるよう進めている。

#### 【 消費者団体 A 】

農家は昔、自家で生産した作物から翌年用の種子を採取し生産していたが、遺伝子組換えなどの作物でも自家採取した種子を使った場合、同じ効果のある作物ができるのか。

ゲノム編集について、消費者も認知症予防のジャガイモやGABA（ストレス緩和効果等を有するアミノ酸）トマトなどができればすごく期待すると思うが、農家の生産コスト負担が増えて、その分商品価格が高くなれば納得したものでないと購入できない。

#### 【 消費者団体 A 】

大手資本による種子支配が進むのではないか。農家は新しい技術が利用された種子を手に入れることができるのか。

#### 【 技術会議事務局 】

最近流通している種は、遺伝子組換えかどうかに関わらず、ほぼF1（一

代雑種) というもの。F1 の種は、遺伝的性質が固定された異品種を掛け合わせた際、親よりも優れた形質が均一に現れることを利用。この形質が現れるのは F1 世代だけで、更に次の世代には現れず、F1 世代どうしを掛け合わせても不均一な形質の種となる。

昔は自家採種が行われていたが、作業の効率性や一定した品質を保つため、現在の多くの農家は毎年F1の種を購入し生産している。

大手資本による種子支配への懸念については、米国などが多くの基本特許を取得しているが、日本も他国の基本特許と組み合わせて活用（クロスライセンス）することも視野に入れつつ、国産のゲノム編集技術の開発を進めているところ。

#### 【 消費者団体 B 】

青森県では農業後継者がいないことが問題になっている。農業に従事している親は経済的に厳しいため、子は農業を継がなくても良いと考えている割合が多い。国による目に見える支援が必要で、例えばGAP認証を取得する際の支援や収入保険制度はいい制度だと思うが農業者に対する説明は行っているのか。

#### 【 農政局 】

収入保険制度は新しい制度で、今年の10月から加入申請が始まる。説明会は、農業共済組合が中心となって、2年前から各都道府県、市町村単位で実施してきている。

GAPについては各種取り組み支援を用意している。適正な農業生産工程の管理はできるが、GAP認証を取るのに経費がかかるという実態があり、県でもGAP認証を取る際の支援を行っている。



川原消費生活課長

#### 【 消費者団体 C 】

ゲノム編集について今日初めて知った。食べ物は命に関わるものなので安全、安心なものを開発していただきたい。

アニサキスによる食中毒を防ぐ対処法などを教えてほしい。

コシアブラに放射性物質の基準値超えが多いことについての情報があれば教えてほしい。

### 【 農政局 】

アニサキスは、サバ、カツオ等の刺身等に幼虫が寄生していて、それを食べると激しい腹痛をおこすが、十分な冷凍(−20℃で24時間以上)や加熱処理(中心温度60℃で1分以上)をすることで幼虫を死滅させることができる。また、調理の際に目視で取り除くことも可能。

山菜については、出回り期になると県等で放射性物質の検査を行っている。栽培管理されていない野生のものから出やすいということはわかっているが、なぜ、コシアブラから基準値越えの放射性物質が出るのか等はよく分かっていない。

### 【 消費者団体B 】

遺伝子組換えについて、脱粒しにくいそばの開発をしたら良いのではないか。

安全面については、過去にBSEがあったように、想定していないことが起こり得るということを頭に置いておく必要がある。



会場の様子 2

### 【 技術会議事務局 】

ゲノム編集は、目的の遺伝子のゲノム上の位置などが分かっている必要がある。BSEのお話については、「完全な安全はありえない」と理解している。その点も踏まえ、あらゆる角度から遺伝子組換え等の安全性審査を行っている。